やさしいうすき実行委員会

こんにちは。臼杵市議会議員のひきだくみこです。
市議会定例会で行なった一般質問を中心にご報告します。

発行：ひきだくみこ（やさしいうすき実行委員会会長）
〒875-0041　臼杵市大字臼杵 70 番地の 16
TEL：0972-63-7140　FAX：0972-63-7186
メール：kuu.okok@gmail.com　ブログ：https://www.hkd8.net/

LGBTって知っちょる？

【6月の一般質問より】多様な性を尊重する地域社会の実現を求めて

近年よく耳にする『LGBT』や『性的マイノリティ』。「聞いたことはあるけど詳しくは知らない」といった方もいるのではないでしょうか？　2015 年の調べでは日本人口の 7.6%、約 13 人に 1 人はいるといわれており、左利きや AB 型の人よりも多い割合です。しかし偏見や差別も多く、当事者はなかなかカミングアウト（自身が当事者だと告白すること）できない状況です。

臼杵市では、すべての市民が心豊かに暮らせる「市民が主役のまちづくり」を積極的に進めています。少子超高齢化が進んでいるこの臼杵市が今後も活力を維持していくためには、ひとりひとりが自分らしく地域社会に参加することが重要です。性の豊かさを認めることは多種多様な人々のあり方や生き方を認めることにつながるのではないでしょうか。市民や企業等への啓発活動について質問をしたところ、臼杵市では、性的少数者への理解を「人権課題」と位置づけて差別や偏見の解決に向け取り組み、講演会を開催したり、啓発本を配布することで理解を深め、今後も人権学習会や人権文化セミナーに啓発課題として取り入れていくそうです。来年 1 月には市役所職員向けの LGBT 研修が新たに予定されました。

また当事者が一番多感な時期を過ごす、学校での対応についても質問しました。性への不安や葛藤を抱えた子供たちへの対応や、またそういった子どもたちをからかいやいじめの対象にしない環境づくり。また「相談できる大人がいる」ことも重要で、それは当事者の児童生徒はもちろん、すべての子どもたちにとって「多様性」を意識させ、人権感覚を養うきっかけになるはずです。

臼杵市でも各学校へ「多様な性に対する個別の配慮について」という教職員研修用資料が配布され、小中学校の校長を対象に研修が行われました。
本年度からは、各学校に養護教諭やスクールカウンセラーに加え、教育相談コーディネーターも位置づけ、相談しやすい体制作りも強化し、小学校では本年度、中学校では来年度から道徳が教科化される中で、心の教育に力を注ぎ、学習環境の整備や教育内容の充実を図っていくそうです。

性的少数者への理解が一足飛びに進むとは思っていませんが、まずは、行政職員や教員がしっかりと対処方針を定めることで、LGBT への理解は徐々に広がり深まっていくことだと思います。ひとりひとりの立場や価値観に配慮して、多様な意見を取り入れ、すべての市民が心豊かに暮らせる「市民が主役のまちづくり」を積極的に進めていただきたいと願います。

LGBT ってなに？

LGBT とは、Lesbian（レズビアン、女性を好きになる女性）、Gay（ゲイ、男性を好きになる男性）、Bisexual（バイセクシュアル、男女どちらも好きになるひと）、Transgender（トランスジェンダー、身体の性と心の性が一致しないひと）の頭文字をとった単語で、セクシュアル・マイノリティ（性的少数者）の総称のひとつです。日本においては人口の約 7.6%*（ほぼ 13 人に 1 人）存在すると言われています。

性のありようについては
・身体の性
身体的特徴で分けられる性のことです。従来はこの「身体の性」のみで性別を決められていました。
・心の性（性自認）
自分自身はどんな性だと感じているか、男性、女性、中性、性別は決めたくないという人など、様々です。
・好きになる性（性的指向）
異性、同性、どちらの性も好きになる人、性別で決めたくないという人、特定の人を好きにならないという人など、様々です。
これら3点以外にもあり、その組み合わせにより 100 人いれば 100 通りの性があると考えられています。

近年、LGBT 以外にも多様な性のかたちがあることから、SOGI という言葉で表現されることもあります。
SOGI は「Sexual Orientation and Gender Identity（性指向と性のアイデンティティ）」の頭文字から撮った言葉で、誰もがそれぞれのセクシュアリティを持っているという考え方に基づいています。

＊電通ダイバーシティ・ラボの 2015 年の調べ（全国 69,989 名にスクリーニング調査を実施）

「やさしいうすき」を語る会
性の多様性をテーマに語り合いました

『ひとりぼっちを作らない地域を～ LGBT 当事者のひとりとして～』
7月6日 臼杵市観光交流プラザ　講師：奥 結香（おくゆいか）さん

講師の奥結香さんは 2016 年に立ち上げた LGBT 支援団体で共同代表を務め、講演や相談の対応など、性的少数者への理解を広げる活動をしています。

「セクシャリティに限らずこうあるべきと言う押し付けはその人らしさを奪うことになります。わたしはわたしのままでいたい。私の身長が 167cm あるのと、わたしがレズビアンであることは同じくあたりまえな話。無数にあるわたしという要素の中のひとつにすぎない」という奥結香さんの言葉から「自分らしさを曲げない強さ ＝ あなたらしさを守る優しさ」を学んだ気がしました。

「とても理解しやすくわかりやすい内容でした。ご本人の体験をうかがうのは、一番心に響きました。」「未知の世界でした‥」「LGBT という言葉だけは耳にしたことがありましたが、どのようなことか知りたいと思い参加しました。自分の中にある「アタリマエ」を改めて考え直したいとおもった。」というような、さまざまな意見や感想が聞かれました。もちろん、ある程度理解はしても受け入れるのは難しいという人もいました。
学習会は今後も様々なテーマを設けて続けていきます。
ぜひ気軽にご参加ください。

臼杵山内流が今年も開催されました

江戸時代から 200 年近く続く古式泳法を学ぶ「山内流」。今年は 7 月 22 日から 8 月 11 日まで開かれ、91 人の生徒が参加しました。暑くても寒くても雨が降っていても毎日泳ぎます。数十種類を超える泳法や技法の獲得のために、また自分の限界を知り、それを越えるためにがんばる子どもたちは輝いています。
異年齢との交流や自然の中での体験を通して心も体も丈夫になった子どもたち。大会の日、必死に泳ぎきる姿を見て胸が熱くなりました。

今年の遊泳所開きはごみの片づけから始まりました。水害のために浜にはこれまで見たことがないほど多量のごみが打ち上げられており、地域の方々や市役所の有志のおかげで無事スタートできました。
「山内流」はこの海とともに先人から継がれた臼杵の宝物です。私も指導者の一人としてしっかりと継いでいきたいと思います。

学校の給食ってどうなっちょん?

【6月の一般質問より】学校給食におけるほんまもん野菜の使用と給食費の徴収方法について

臼杵市が目指す『有機の里づくり』のひとつとして、学校給食で使用する野菜などを地元の生産者が生産供給する「給食畑の野菜」という取組みがあります。豊かな食は成長期の子どもたちの健全な育成につながりますし、農業に対する理解、地元への愛着などを育むことができるすばらしい取り組みであり、子育て世代が移住のポイントとしてあげるほど、充実した内容です。
しかし、地元野菜使用率の目標値を平成 31 年度には50%としているのに、ここ 3 年間は 40 パーセント前後のままです。その原因は?また目標値達成のためにどのような対策があるのでしょうか?

実は使用率が制限される原因は調理時間にありました。
給食に使うほんまもん野菜は当日分が早朝に納入され、洗浄、皮むき、カットなどの丁寧な下処理を行うのに時間がかかっていたのです。
対策としては平成 29 年度からその一部を加工業者に発注することにしたそうです。よって不揃いの野菜なども扱えることになり、全体の使用量や品目も増え、[使用率 50%]という目標の達成を目指すということです。

また「給食費の徴収方法」について。現在の徴収方法は、野津地域では基本的に口座引き落としであるのに対し、旧臼杵地域ではその徴収業務を教職員が担っています。「子どもが多額の現金を扱うことへの不安」や「万が一なくした場合の対応」などを考えると、学校給食費の徴収方法を市内全域で口座引き落としにすることはできないのでしょうかと質問したところ、野津地域と同じように臼杵地域でも口座引き落としに移行するための準備を進めているそうです。

学校給食の費用も義務教育の一環と位置付け、少しずつでも市が負担する方向(給食の無償化)を模索していただきたいと願っています。学校給食に関しては継続してその取り組みを見守っていきます。

市議会議員って何しちょん?

「一般質問」の巻

市議会議員っていったいどんな仕事をしているの?なかなかわかりにくい市議会議員の仕事を少しずつご紹介します。

臼杵市議会は、年に 4 回の定例会という大きな会議があります。3・6・9・12 月にそれぞれ 3 週間程度の会期が設定されています。
市長が作った予算組みや議案を市議会が審議し可決・否決・修正をする審議会や、市議会議員が市政について質問できる「一般質問」も定例会で行われます。

市議会議員には一般質問をする権利があり、与えられる時間はひとり 1 時間です。
一般質問の内容は会議の当日に初めてやりとりされるのではなく、「答弁の正確性と、回答に時間がかかって本会議を止めることを避ける」ために、あらかじめ市役所との間で「聞き取り」が設けられ、質問の背景や趣旨などを確認して行なわれます。

実は一般質問は市議会議員が市政についての不明な点を質問し、追及する機会というわけではなく、市政の中の気になる事柄について執行部の考え方や現状、見通しなどについて確認するスタイルになっているようです。また臼杵市議会は質問を行う議員は毎回全体の1/2～1/3ほどです。

市民の皆さんに関心を持ってもらうためには規則や慣習に縛られすぎずに、もっと議員が政策の提案などを積極的に行い、行政とお互いの思いや方向性を議論できるような工夫が必要なのかもしれません。

一般質問は臼杵市のホームページから会議録や動画配信を見る事ができます。またケーブルテレビでも放送していますので、ぜひご覧の上ご意見ください。

最近の夏は異常に暑いんだからなんとかして

【9月の一般質問より】学校のエアコン設置について

この夏の猛暑を受け、臼杵市内においても子どもたちの健康を守るために教室内のエアコン設置は必須だと考え、どのような計画となっているのか質問しました。
臼杵市も急務の課題として取り組んではいるのですが、巨額なコストがかかるので、国の交付金措置を待ってすぐに進められるように予算案を計上し、来年度中の全小中学校の普通教室・特別教室への設置を目標にしているそうです。

今後の課題として災害時の避難場所としての機能を持たせるためにも、体育館へのエアコン設置の検討もお願いしました。

学校の先生が忙しそうで、子どもたちの学校生活が心配

【9月の一般質問より】学校現場における働き方改革について

教育現場での教員の長時間労働の常態化と疲弊が問題となっています。2016 年の文部科学省の実態調査では、月 80 時間の時間外労働という過労死ラインを超えて働いている割合が、小学校 33.5%, 中学校 57.5% となっており、臼杵市においてもアンケートで調べたところ同じような状況がみられました。子どもたちが個々の特性をはぐくみながらのびのび育つためには現場の先生方が人間らしく生き生きと働ける職場環境が不可欠だと考えます。

教職員の現状を変えるためには、業務内容を減らすか、人員を増やすかしかないと思われるのですが、まず現状把握の状況や今後どういった取り組みをされるのかを質問しました。

現在臼杵市では教職員の勤務状況は管理職による把握のみですが、出退勤システム導入を検討しているそうです。また業務自体を減らすということは難しいので、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーなどの外部の専門家を配置することでいじめや不登校の対応といった業務は軽減しているそうです。また市内2校にスクールサポートスタッフが配置され、教職員でなくともできる雑務を任せることでかなりの負担減になっており、更なる導入を県や国に働きかけていくそうです。

また学校・家庭・地域・行政が一体となって子どもたちを見守り育てる「コミュニティスクール」の取り組みを進めることで教職員の負担軽減や、教育内容の充実にもつなげていくということでしたが、現実的には様々な考え方を持った人たちが学校に出入りすることで、かえってその調整などで現場が対応に追われることも想定されます。それに対しては「様々な立場の人が協育できるよう『心得マニュアル』を作り対応したい。学校や子どもが活気づくコミュニケーションを大切にしたい」ということでした。

『地域に開かれた学校』を目指すコミュニティスクールの取り組みは大変すばらしいと考えます。しかしながらまだスタートしたばかりで浸透していません。取り組みの趣旨や意義を広く市民の皆さんにお知らせしていく必要があると感じました。

現場での働き方に無理が生じることでしわ寄せが行くのは子どもたちです。教職員への負担が行き過ぎることのないよう「地域の学校は地域のもの」で「地域の子どもは地域で育てる」という認識で、住民と学校が一体となって子どもを見守っていける風通しのよい「コミュニティスクール」が広まっていくことを期待したいと思います。

「やさしいうすき」を語る会

～子育てについて語りませんか?～

日　時:10月6日(土曜日)午後5時から
参加費:100円
場　所:ひきだくみこ後援会(臼杵市祇園東1組・東中学校の横)
申込み:090-1943-8056
※子どもさんも一緒に参加してくださいね。スタッフおります。